

# 損害保険 大手各社の動向は

## 築年数別マンション保険料 モデルケース

(単位:円、期間5年分)

条件—東京都、70戸、延べ床5000平方メートル、保険期間5年、掛け捨て型。建物評価7億円、保険金額4億2000万円(付保割合60%)。施設賠償責任特約保険金額5億円、個人賠償責任特約保険金額1億円。水災不担保、電氣的機械的事故不担保、災害緊急費用特約なし

保険名	東京海上グループ		MS&ADインシュアランスグループ		SONPOホールディングスグループ
	東京海上日動火災	日新火災	三井住友海上火災	あいおいニッセイ同和損保	損保ジャパン日本興亜
新築	827,950	900,650~936,100	1,298,470	905,310	955,580
築5年	1,237,680	900,650~1,145,780	1,566,060	1,263,430	1,133,180
//10年	1,646,790(1,482,190)	1,033,370~1,491,860	1,946,230	1,790,410	1,628,730
//15年	2,237,900(2,015,150)	1,032,340~1,904,880	2,538,720	2,525,960	2,525,610
//20年	3,104,240(2,794,610)	1,091,140~3,024,130	3,469,850	3,404,730	3,028,790
//25年	3,829,720(3,446,260)	1,091,140~4,056,780	4,929,390	3,775,830	試算困難
//30年	4,579,560(4,121,170)	1,084,640~5,040,420	6,536,310	4,221,640	試算困難
//35年	4,579,560(4,121,170)	1,084,640~5,040,420	6,536,310	4,221,640	試算困難

(東京海上日動の( )内金額は無事故割引適用。作成協力・セゾン保険サービス。2016年8月19日現在)

今回も総合代理店セゾン保険サービスの協力を得て、損保5社の保険料比較表を作成した。今や築年数ベースに保険料等が細かく異なるため「さっくりとした保険料の格差程度として見てほしい」(岩崎正裕マンション営業部マネジャー)と指摘する。

表は便宜上築年数を8区分に設定。実際の各社の保険料率は三井

「小廉状態」とされる。三井住友海上(三井)とあいおいニッセイ同和(あいおい)は築29年(日新)は5区分に細分化されている。

三井住友は築年による引き受け制限を設けず

昨今続いた大手損害保険各社によるマンション保険の保険料等改定の動きはようやく収まる気配を見せ始めている。ただ築年数に応じて保険料が高くなる仕組みが各社で定着し、築年数が浅い管理組合も早めの準備が肝心。ただどんなに管理状況が良好でも水漏れ事故は防げない面もあり、一定の覚悟は避けられない。

# Report 保険料のピーク 築30年

**マンション管理組合・管理会社 必見! /**  
**メンテナンス状況無料診断**  
 共用部分の火災保険なら  
**Dr. マンションドクター 火災保険**  
**診断結果で 保険料が割引に!**  
 日新火災海上保険株式会社  
 マンションドクター火災保険ご相談窓口  
 フリーダイヤル: 0120-585-231  
 受付時間: 平日9:00~17:00 土日祝休み

ここ数年来、築年数別保険料体系の導入、いよいよニッセイ同和(あいおい)は築29年(日新)は5区分に細分化されている。

三井住友は築年による引き受け制限を設けず

三井住友は築年による引き受け制限を設けず

三井住友は築年による引き受け制限を設けず

経年とともに保険料負担は重くなっていくが、割引制度を設ける会社もあり、金額を通じて各社の姿勢が感じ取れる。

東海は築10年以上に対する適用があり、日新はマンション管理士による管理実態の診断結果に応じて保険料が変わる。損保は築25年以上はリスクチェックシートに基づき引き受け条件が厳しく単純な試算が難しい。三井は保険料が高めだが、築年数による引き受け制限を設けていない。免責金額は個人賠償等で、一定の築年数以上では金額が各社で異なる場合がある。

次ページにつづく

